

第 11 章 2030 型セルフラーニング（学習スタンダードの具体）

1 2030 型セルフラーニング（学習スタンダード一覧）

授業は、8 学習過程のうち 16 の具体的な指導項目を実践すれば誰でも質の高い授業を行うことができる。

学習過程	具体的な学習指導	手立て		
1 見通し	①前時の振り返り（全員が各々言う*指名をしない）	「授業の前」学習リーダー 「授業中」学習リーダー		
	I ②問題(資料)の提示			
	II ③気づき(問いをもつ)(気づき3視点*教科リーダーが一人で行う)			
	III ④学習課題の選択(4種類の課題あり)			
	⑤学習課題の3回読み			
	⑥まとめの書き出し			
	⑦キーワードの掲示			
	IV⑧見通し(問いの共有)(見通し3視点 学習内容・学習方法・アイテム・キーワード)			
	2 解決活動(この段階から個別最適な学び)		V ⑩自力解決	A 全員が書くホワイトボード B ホワイトボードの付箋紙 C スマイルパス
			⑪学ぶ場・仲間の選択(例、班学習)	
VI ⑫集団解決				
⑬学び方の選択				
㉞ ゼミナール形式での考察				
㉟ 3色マーカーでの考察				
㊱ 班集合型の考察				
㊲ ワールドカフェ				
㊳ 異学年交流・同学年交流				
3 まとめ		VII ⑭まとめ(価値の共有・まとめブツブツタイム(全員発表・指名をしない))		
4 振り替り	VIII ⑮振り返り(振り返りブツブツタイム(全員が発表・指名をしない))	「授業終了後」の学習リーダー		
	⑯子どもミニ授業反省会	㉞ 教室内個人評価 ㉟ 体育館に集合 ㊱ 教師研究短時間協議会		

2030型セルフラーニング

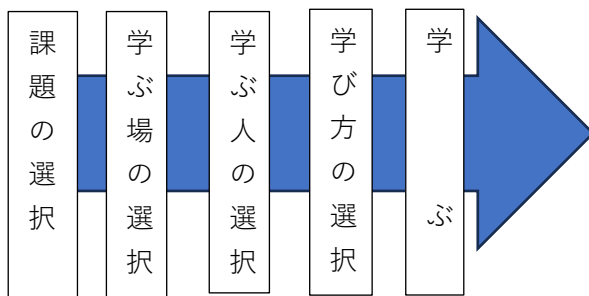
(1) アクティブラーニング学習指導要領

1 第1章1の(2) ③アクティブ・ラーニング 2 第1章第2の2(1)教科横断的な視点に立った資質・能力の育成 3 第1章第3の1(1)問題解決的な学習過程の充実 4 第1章第3の1(6)自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設ける 5 第1章第3の1の(2)言語環境の整備と言語活動の充実 6 第1章第3の1の(4)見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動 7 第1章第4の1の(4)グループ別学習、繰り返し学習 8 第1章第3の2の(1)児童による学習活動としての相互評価や自己評価 9 個別最適で協働的な学び (次期学習指

(2)2030 セルラーニング (学習スタンダード) の特徴

- (1) 学習課題を選択
- (2) 学び方の選択
- (3) 異学年の学び

(3) 2030 学び方の基準



(4) 2030 学習過程

1 前時の振り返り→ 2 問題 (資料) の提示
→ 3 気付き→ 4 学習課題の設定→
5 見通し→
(→解決活動の自由化 6 自力解決→ 7
集団解決 (考察) → 8 まとめ→ 9 振り返り)
*どこから取り組んでもよい。

(5) セルフラーニング (教えない授業) とは?

学び方を身に付けた子どもが、学習課題を問題解決的な学習過程 (PBL) で追究していく学習。子どもが**教師ぬき**でアクティブに交流する学習。「学びの流れ」の型を使い、協働的に学ぶ学習。
<協働の場、判断の場、調整の場、対話の場>

(6) 学習リーダーが中心のセルフラーニング
教師ではなく、子どもが学習の主体者としての意識をもち、仲間と協力して学習を進める役割。

***学習指導要領総則にも「各教科の指導にあたっては、自主的・自発的な学習が促されるように工夫すること。」**とある。その役目を学習リーダーが担っている。

学習リーダーの役割の内容

授業前①学習活動略案例 (学習進行表) ②学習単元設定づくり ③学習課題やめあての作成と指導教師との打ち合わせ ④板書計画とグッズの掲示⑤教材作成⑥キーワード (教科用語) の作成

授業中①司会・進行係②キーワードの掲示③タブレット・ノート・ホワイトボード利用の促し④記録用のビデオカメラの設置⑤班長への指示⑥リーダーが折にふれ集合・確認作業

授業後 (授業終了後) ①子ども研究協議会 (班→全体発表) ②生徒自身のワークショップ③他

[授業の前]学習リーダー

- ①学習活動略案例 (学習進行表)
- ②学習単元設定づくり
- ③学習課題やめあての作成と指導教師との打ち合わせ
- ④板書計画とグッズの掲示
- ⑤教材作成
- ⑥キーワード (教科用語) の作成
- ⑦付けるべき力の掲示
- ⑧全員活躍の姿の提示
- ⑨わくわく目標朝礼 ⑩ノートづくり

1 見通し

[授業中]学習リーダー

- ①司会・進行係②キーワードの掲示③タブレット・ノート・ホワイトボード利用の促し④記録用のビデオカメラの設置⑤班長への指示⑥リーダーが折にふれ集合・確認作業

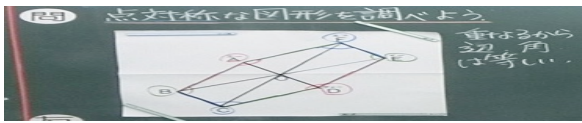
① 前時の振り返り ・ぶつぶつタイム

- 分かったこと
- がんばったこと
- 友達から学んだこと



② I 問題(資料) の選択

- ・問題や資料が示されます



③ II 気付き (問いをもつ) *リーダーが発表

- ・気がついたこと ・考えられること
 - ・調べてみたいこと
- * 社会系
- ・気がついたこと ・考えられること
 - ・調べてみたいこと

④ III 学習課題の選択 (1~4種類)

- ・課題を青線で囲みます



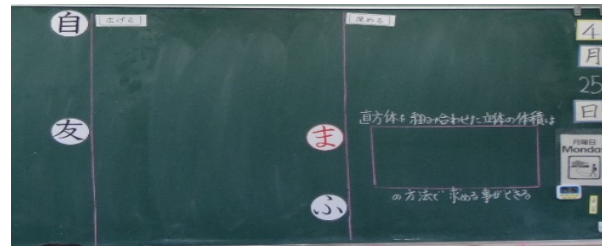
⑤ 学習課題の3回読み

- ・課題を書いた人から読みます



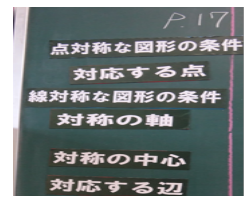
⑥ まとめの書き出し

- ・課題とまとめの1行目は同じ

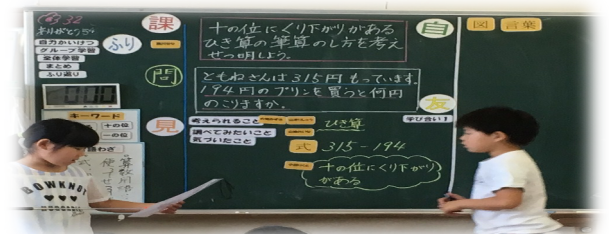


⑦ キーワードの掲示

- ・教科の専門性の向上
- ・教科用語 ・学習用語
- ・可視化 ・指導案にも記す



⑧ IV 見通し 学習内容・学習方法・アイテム・キーワードが1回目にここに旅をします



⑨ 自力解決の2度の確認

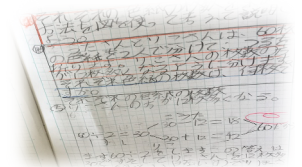
- ・教え合いをします



2 (個別最適) 解決活動 (1~5人)

⑩ V 自力解決

- ・図、式、言葉
- ・考えた訳も書き
ます
- ・ブラブラタイム



⑪学ぶ場・仲間の選択（例 班学習）

- ・ノート回し
- ・ホワイトボード

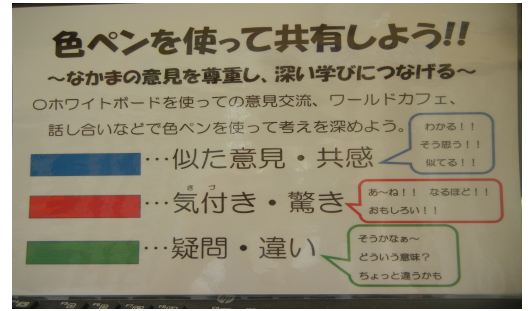


⑫VI集団解決

- ・褒めてアドバイス
- ・ペアは4ペア



⑬色マーカー式



⑭班集体型



A 全員が書くホワイトボード



B ホワイトボードの付箋紙の仲間分けKJ法

- ①すべて書き出す
- ②分類してグループ名をつける
- ③タイトルをつける
- ④関連性がありそうなグループ同士を、矢印などを使って図解化
- ⑤テーマの内容をひとつの文章にまとめる

⑮ワールドカフェ（ぶらぶらタイム）



C スマイルパス

- ・話をつなく



⑯学び方の選択（考察方法）⑰ゼミナール形式



⑱異学年交流・同学年交流

- (1)学習課題はちがうが「教えに行くスタイル」
- (2)学習課題は違うが学び合いの中で交流（イエナプラン型交流）
- (3)共通学習課題による異学年年交流版
- (4)異学年交流

(旧一斉学習用学習スタンダード)

①学び合い1

「単純意見交換」 ・意見や調べた事実の
単純な
意見交換をします ・キーワードを活用
します



②学び合い2「考察」

・再度、課題文を読みます ・気づきを発
表します ・キーワードが2回目の旅をし
ます



3 (個別最適) まとめ (1~5人)

⑭Ⅶまとめ (価値の共有)・自分流で書きます

・教師のまとめを写し
ません・キーワードの
3回目の旅です
・まとめブツブツタイム
・「つまり」が主語



4 (個別最適) 振り返り (1~5人)

⑮Ⅷ振り返り ぶつぶつタイム (ペア)

ふりかえり

①分かったこと 気づいたこと
できるようになった

②分からなかったこと
できなかったこと

③友だちから学んだこと

④もっと知りたいこと

(7) 自己評価・相互評価

[授業終了後]の学習リーダー

- ①子ども研究協議会 (班→全体発表) ②生徒自身のワークショップ③他学年参加の場合は、感想を聞く (付箋紙)

⑯ 子どもミニ授業反省会

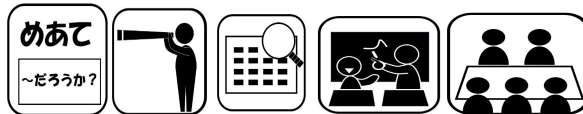
・先生も参加



⑰教室での個人評価(全体会場に行く前に)

- 1 「まとめ」を自分の言葉で説明できたか
- 2 キーワードを使って学ぶことができたか
- 3 話し合い中に2回以上自分から意見が言えたか
- 4 わからないところがわかったか
- 5 「みがきあい言葉」を2回以上使って

⑱体育館に集合 (数値による見えるか)



めあて・見通し・キーワード・リーダー・考察

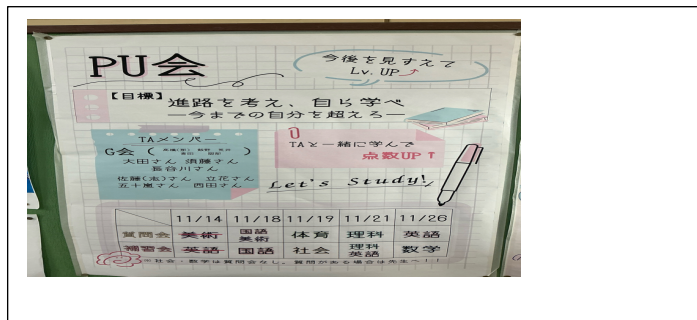
㉑ 教師研究短時間協議会 話し合いの3視点

- ①短時間で終える
- ②子どもの自主評価相互評価を評価中心
- ③成果・課題改善策を口頭や付箋紙で集約

(8) 研究冊子は子どもと教師の合作



(9) 生徒が担う学力向上対策



(10) 児童が担う学力向上策

